

笑顔大好き

発行者：常井洋治
〒319-0205 笠間市押辺1745
TEL.0299-45-6818
FAX.0299-45-0818



▲羽成英臣水戸土木事務所長(写真左)と共に岩間ICから茨城空港へ向かう県道上吉影岩間線バイパスから広域農道(メロンロード)までの「直結道路」の開通状況を現地調査しました。先月16日には石岡小美玉スマートICからの茨城空港アクセス道路が全線開通されましたが、時期を同じくして開通したこの「直結道路」を利用すれば岩間ICからも30分かつからず空港まで行くことができます。私は、空港開港前から、一般質問等でこの「直結道路」の必要性を問い質してきましたが、20年かけてようやく開通でき、利便性が向上したことに感無量です。(令和3年6月23日)

一緒に創ろう! ふるさと

令和3年県議会4月臨時会(令和3年4月28日)
第2回定例会(令和3年6月1日~6月18日、18日間)を終えて

笠間市・茨城県の輝く新時代

令和3年4月臨時会は、4月28日に開かれ、予算など3件の議案が可決、承認されました。令和3年第2回定例会は、6月1日から6月18日までの18日間開かれ、予算、条例、人事など20件の議案が可決、同意、承認されました。

新型コロナウイルス感染症対策関連予算(令和3年度)

(単位：百万円)

区分	当初予算	4月補正 (臨時会)	6月補正	同左 (追加提案分)	合計
一般会計	162,082	29,389	2,162	37,175	230,807

※単位未満の四捨五入により、合計と各項目の足し上げが一致しない場合がある。

令和3年度4月・6月県一般会計補正予算を可決

◎補正予算等※ **687億47百万円**

◎補正後予算 **1兆3,639億25百万円**

※内訳：4月補正29,410百万円、6月補正2,162百万円、
6月補正追加提案37,175百万円

主な事業

4月補正

(1)新型コロナウイルス感染症対策

①感染拡大防止策と医療提供体制の整備等

- ・感染症予防医療法施行事業 1,189百万円
- ・新型コロナ医療従事者応援事業 1,170百万円
- ・介護福祉施設退院促進事業 3百万円
- ・新型コロナ対策営業時間短縮要請協力金 18,050百万円

②県民生活等への支援

- ・生活福祉資金貸付原資等助成事業 8,866百万円

③県内産業等への支援

- ・いば旅あんしん割事業 111百万円

(2)県政の課題等への対応

- ・119番映像通報システム導入促進事業 22百万円

6月補正

①感染拡大防止策と医療提供体制の整備等

- ・感染症予防医療法施行事業 675百万円

②県内産業等への支援

- ・いば旅あんしん割事業 487百万円

③今後への備え

- ・予備費 1,000百万円

6月補正(追加提案)

①感染拡大防止策と医療提供体制の整備等

- ・感染症予防医療法施行事業 12,712百万円
- ・新型コロナ医療従事者応援事業 170百万円
- ・介護施設等感染拡大防止事業 15百万円
- ・新型コロナ対策営業時間短縮要請協力金 20,762百万円

②県内産業等への支援

- ・営業時間短縮要請等関連事業者支援一時金 1,987百万円
- ・宿泊事業者感染対策支援事業 1,238百万円
- ・茨城まるごとお取り寄せ事業 248百万円
- ・カーボンニュートラル技術実証推進事業 25百万円
- ・茨城空港発着遊覧飛行運航支援事業 6百万円

常井洋治が皆さんとともに進める 地元の道路・河川・農地の整備

私、常井洋治が、地元の皆さんから様々な要望を受け、水戸土木事務所、県央農林事務所土地改良部門の幹部との勉強会を開催しました。毎年定期的で開催してきて、今回で23回目です。着実に整備を進めています。主だった項目と進捗状況をお知らせします。

水戸土木事務所との勉強会 (R3.6.22)



▲羽成英臣水戸土木事務所長(左奥)と関係各課長に、地元事業の円滑な推進を求めた。

[道路関係]

- ①国道355号穴戸橋の架替(南小泉～橋爪地内 L=550m W=13.5/6.5m)と大洗友部線(橋爪地内 L=550m W=11～13/6.5m)の整備
 - 国道355号穴戸橋の架替【令和3年度予算：76百万円】
 - 大洗友部線の整備 【令和3年度予算：46百万円】
 - ・今年6月、地元説明会を開催し計画図を提示した。令和3年度は用地測量を実施し、用地買収に着手する。
- ②杉崎友部線(小原地内 L=350m W=9.75/2.5m(歩道))の整備
 - 【令和3年度予算：46百万円 令和2年度補正予算：10百万円】
 - ・今年6月、地元説明会を開催し計画図を提示した。令和3年度は用地測量を実施し、用地買収に着手する。
- ③平友部停車場線(こころの医療センター-西交差点～大沢跨線橋 L=980m W=16/6.5m)の整備
 - 【令和3年度予算：100百万円 令和2年度補正予算：20百万円】
 - ・令和3年度は、市道部交差点(点滅信号)付近から大沢跨線橋までの延長約220mの道路改良舗装工事を実施する。
- ④稲田友部線(上加賀田地内)と笠間つくば線(下市毛から南吉原地内)の整備
北関東自動車道笠間パーキングエリアのスマートIC化
 - 稲田友部線 【令和3年度予算：20百万円】
 - 笠間つくば線【令和3年度予算：20百万円】
 - ・令和3年度は、スマートICが設置されることによる周辺道路の交通量増加等を勘案し、県道の調査を実施する。
- ⑤石岡城里線バイパス(茨城中央工業団地笠間地区外～岩間IC方面。長兎路地内 L=2,700m(橋梁含む) W=27/13m)の整備
 - 【令和3年度予算：200百万円】
- ・令和2年度は、地元説明会を開催し計画図を提示した。
- ・令和3年度は、用地買収に着手するとともに、擁壁等の設計を実施する。
- ⑥稲田友部線(稲田友部線バイパスから調整池まで 本戸地内 L=670m W=11/6m)の整備
 - 【令和3年度予算：25百万円】
 - ・令和3年度は、引き続き用地買収を進めるとともに、伐採工事を実施する。
- ⑦富谷稲田線(稲田地内 L=2,500m W=10/6m)の整備
 - 【令和3年度予算：25百万円】
 - ・令和2年度は、地元説明会を開催し計画図を提示した。
 - ・令和3年度は、用地買収に着手する。
- ⑧笠間市への移管道の整備：宇都宮笠間線(石井神社から荒町角交差点間 L=1,000m)
 - 【令和3年度予算：55百万円】
 - ・令和3年度は、舗装補修や側溝修繕などの工事を実施する。
- ⑨笠間つくば線(下市毛地内 L=180m W=2.5m)の歩道整備
 - 【令和3年度予算：31百万円】
 - ・令和3年度は、引き続き用地買収を実施する。
- ⑩平友部停車場線(友部駅前 L=320m)の電線地中化
 - 【令和3年度予算：10百万円 令和2年度補正予算38百万円】
 - ・令和3年度は、電線共同溝整備工事や舗装修繕工事を実施する。
- ⑪(仮称)道の駅かさま(手越地内 駐車場整備等)
 - 【令和2年度補正予算：30百万円】
 - ・令和3年秋のオープンを目指し、笠間市と県が一体となって整備を進めている。県は、国道355号や駐車場の一部の整備を実施している(約1億円)。
- ⑫道路の舗装修繕
 - 【令和3年度予算：55百万円 令和3年度補正予算24百万円】
 - ・茨城岩間線(安居地内、岩間IC東側)、平友部停車場線(平町地内、友部二小付近)、日立笠間線(大橋地内)において、路面の傷みが著しい箇所の舗装修繕工事を実施する。
- ⑬真端水戸線の整備(スターツ笠間ゴルフ倶楽部付近)
 - ・用地買収済み区間のうち、工夫して局所的に拡幅できるように検討を継続していく。
- ⑭県道大洗友部線(仁古田地区)の整備
 - ・茨城町境橋梁部(一の橋)の整備は、未買収地(共有地)が取付部分にかかるため、橋梁を含め工事は用地解決後となる。
 - ・笠間市側、茨城町側の両方に共有地があり、解決に時間を要する。

- ・現在までに、共有名義の地権者を確認しているところであり、引き続き、笠間市及び茨城町と連携しながら共有地の買収に向け調整を進める。

⑮吾国山道祖神峠のトンネル化

- ・地域振興に向けた地元における今後の取組等を勘案しながら、どのようにすれば事業化が可能か、関係者と協議していく。

[河川関係]

⑯涸沼川の改修事業の促進(中流工区 L=9,300m)

【令和2年度補正予算：250百万円】

- ・令和3年度は、宍戸橋上流左岸の用地買収を進めるとともに、亀の甲橋からレイクス間の河道掘削工事を実施する。
- ・併せて、上加賀田及び下市毛地区での河道掘削工事を実施する。



▲涸沼川の上加賀田地区での河川改修。(令和3年2月)

⑰涸沼川の改修事業の促進(笠間工区 L=2,400m)

【令和2年度補正予算：150百万円】

- ・JR水戸線から国道50号までの河川改修を進めている。
- ・令和2年度は、佐白大橋から笠間大橋までの一部区間について護岸及び排水管整備を実施した。
- ・令和3年度は、引き続き佐白大橋から笠間大橋までの一部区間について護岸工事を実施する。

⑱県単河川防災費【令和3年度予算：250百万円】

- 1) 稲田川(来栖地区)護岸・竹伐採
- 2) 涸沼川(大淵地区)護岸工
- 3) 間黒川(箱田地区)測量設計・護岸工
- 4) 涸沼前川(小原地区)護岸工
- 5) 枝折川(随分附地区)護岸工
- 6) 枝折川(湯崎地区)測量設計・護岸工
- 7) 二反田川(南吉原地区)護岸工
- 8) 片庭川(石井地区)護岸工
- 9) 涸沼川(仁古田、安居、湯崎、押辺、土師、住吉、矢野下、大古山地区等)竹木伐採



▲涸沼川の仁古田、湯崎地区での竹木伐採。(令和2年7月)

10) 随光寺川(上郷地区)土砂撤去

11) 桜川(上郷地区)土砂撤去



▲上郷地区の随光寺川、桜川でのたい積土砂撤去。(令和3年1月)

[公園関係]

⑲茨城県笠間芸術の森公園

【令和3年度予算：国補10百万円、県単17百万円】

- ・平成30年度よりあそびの杜第Ⅱ期エリアの整備を進め、令和3年3月にスケートボード施設が完成した。
- ・令和3年度は、老朽化した公園施設の更新・修繕を行う。

県央農林事務所土地改良部門との勉強会 (R3.6.22)



▲山藤郁夫土地改良部門長(左中央)と関係各課長に、地元事業の円滑な推進を求めた。

笠間市内の土地改良事業の新規事業 (R3年5月現在)

(単位:千円)

事業区分	地区名	工期	全体		令和2年度までの進捗	令和3年度		令和4年度以降	
			事業量	事業費		事業量	事業費	事業量	事業費
県営	(R3新規) 押辺・安居	R3~R9	用水 99.7ha	984,000	0%	測量設計	24,000	用水 99.7ha	960,000
団体営	(R3新規) 矢野下	R3~R5	涸沼川 堰修繕 1ヶ所	150,000	0%	設計	10,000	堰修繕 1ヶ所	140,000

保健福祉医療委員会の質疑要約 (R3.6.10)

- 県立3病院は、新型コロナ関係補助金により多額の純利益が計上されたが、医師、看護師等の労に報いるためにも、手当の増額を検討すべきだ。
- ワクチン接種の全体の流れが分かりづらい。広報誌「ひばり」等で県民に分かりやすく伝えるべきだ。
- ワクチン接種は、県が調整役となり、国が示した期限までに終わらせるべきだ。
- コロナ対策は、知事が独断に近い形でやっており、エビデンス等が県民には見えていない。一刻も早く「見える化」を実施すべきだ。

【病院局】

常井委員 中央病院の最大時のコロナ病床数は。
島田経営管理課長 昨年度にコロナ病床として確保したのは最大40床だが、その数を確保するには、病棟ごと空ける場合もあり、最大時の空床数は100床を超えている。
常井委員 中央病院は、県立唯一の総合病院として大きな期待があるが、十分対応できる病床数となっているのか。その点の自己評価を病院長に伺う。
島居中央病院長 コロナ病床は、限界を超えている数字だと認識している。医師は専門と無関係に全員参加でやっており、看護師も閉鎖した病棟の看護師をローテーションして対応してきた。通常診療や救急、がん診療なども並行して行っており、かなりの負担が各個人にかかっている。コロナ病床の確保や陽性患者の受け入れ対応としては、最大限尽くしてきたと考えている。

常井委員 県立3病院の令和2年度決算概況(速報)を見ると、新型コロナ関係補助金により、多額の純利益(中央病院：約13億円)が計上されているが、医師や看護師等に対して、どれだけの待遇をしてきたのか。

島田経営管理課長 特別手当を新たに設け、コロナ対応の職員に総額約1億7,000万円を支給した。

常井委員 現場で大変な思いをしながら尽力している職員の労に報いるためにも、手当の増額を検討するなど、しっかりと対応してもらいたい。

【保健福祉部】

常井委員 7月末までに高齢者接種は終わるのか。
黒澤業務課長 当初は7月末までに終わらない見込みの市町村が多くあったが、医師派遣や大規模接種会場の開設などにより、県内すべての市町村において7月末までに高齢者接種を終える見込みである。

常井委員 高齢者接種が終われば、64歳から16歳まで順次引き下げて接種していくのか。また、15歳以下の接種を考えている市町村はあるか。

黒澤業務課長 基礎疾患のある方やエッセンシャルワーカー(生活必須職の従事者:保育士やバス運転士等)など、優先度の高い人がいる。どういう人を優先的に接種するのか、市町村に例示を示せるよう現在検討を進めている。

ファイザー社のワクチンが、これまでの16歳から12歳まで接種年齢が引き下げられた。今回のように接種年齢の引き下げがあれば、その都度対象に加えていくことになるが、現状では、高齢者接種が終われば、12歳までを接種対象として市町村から接種券が配られることになる。

常井委員 職域接種の申請状況について、県ではどの程度把握しているのか。

黒澤業務課長 国に直接申請するため、県で受理することはないが、県内で既に9件の申請があったと聞いている。

常井委員 ワクチン接種は、市町村の個別接種や集団接種の他、県や自衛隊の大規模接種、職域接種など多岐にわたっている。そのため、誰がいつどこで打てばよいか全体の流れが見えてこない。分かりやすく伝えていくことも県の務めだと思うので、広報誌「ひばり」等を使い、誰にでも分かるよう周知してもらいたい。

また、菅総理から10月から11月にはすべてのワクチン接種を終えるようにしたいとの発言があったが、茨城県は終わることができるのか。

黒澤業務課長 目標が示されたのが昨日のため、今後検討していきたい。

常井委員 市町村では、市町村以外の接種主体が増え、体制をどうするかなど戸惑いもある。そういうところを全部調整するのが、県の役割である。県には、国が示した期限には何がなんでも間に合わせる、そういう体制で取り組んでもらいたい。

また、茨城県は、国の意向に沿わないところがあり、大規模接種会場の設置も遅れた。県の専門化会議も長期間開催されず有名無実化している。知事が独断に近い形でやっており、エビデンスも知見も県民には見えていない。一刻も早く「見える化」をすべきだと思うがどうか。

木庭保健福祉部長 県の感染症対策協議会や専門家会議では、県内の医療機関関係者や感染症の専門家など幅広く意見をもらい、施策に反映している。それが見える形になっていないという指摘には、県民にも理解してもらえよう対応を考えていきたい。

また、ワクチンは、新型コロナ終息の鍵を握っているため、1日も早い集団免疫の獲得を目指し、あらゆる手段を使って、ワクチン接種機会の拡大に努めていきたいと考えている。



▲保健福祉医療委員会でコロナ対策やワクチン接種の対応を質問した。

県議会議員の活動から



▲政府が処理水の海洋放出を決定したことを踏まえ、福島第一原子力発電所を現地調査した。国が前面に立ち、処理水が安全な水であることをどこまでも丁寧に説明するなど、最終責任者としてしっかりと取り組んでもらいたい。(R3.4.30)



▲私立中高一貫教育校として先進的に取り組んでいる茨城高等学校・中学校の医学コースや国際教養コースを視察した。生徒一人一人がオンラインで外国人と英会話するなど、魅力的な授業だった。(R3.6.23)



▲毎週、コロナ対策やワクチン接種の担当課長らに状況聴取を実施している。専門家意見の施策への反映や、大規模接種会場を始めとしたワクチン接種の加速化など、コロナ禍を乗り越えるために執行部へ検討を求めている。(R3.7.1)